

みんなのおた場

届いたお手紙から みんなのおたより紹介



「マロ」にありがとう

我が家に犬の「マロ」が来てからもう5年になりました。私は犬や猫が嫌い、孫達が欲しがっても、いつも反対していました。ところがある日突然、マロは我が家にやってきました。

予想通り私はマロの散歩係になり、朝夕の2回散歩に連れていきます。この散歩も、5年も経つとなんと、マロは「一匹」ではなく「二人」扱いになり「格上げ」になったね、マロ。今では

私の言う事も理解し、気持ちが通じ合っているようです。散歩の時等は、私の歩調に合わせて歩いてくれます。今になれば良いパートナーです。マロが帰ってくるのが、外に出てお迎えです。折に触れて、家族の話の中心はマロです。散歩しにくい時のマロは、すぐ帰ろうとして引つ張りま。私も少しだけ引つ張ってみるので、「アメとムチ」のような関係で付き合っています。火花が怖いマロ、何でも知っているマロ、いつも留守番ありがとう。これからも一緒に歩こう、がんばっぺし！

(細川恵子)

キラッとパチリ

市の復旧復興支援で訪れている長期派遣職員の方々の中から、今回は資産税課で平成24年4月から新築家屋等の評価業務にあたる伊藤大輔さんと大山隆徳さんを紹介いたします。

全力でまちの復興をサポート

伊藤さんは、これまで培った業務経験を被災地で生かされたと派遣を志望しました。平成23年8月にもボランティアで石巻市を訪れており、「まちは徐々に落ち着き

を取り戻しつつありますが、大変な思いをされている方がまだたくさんいらっしゃるのも事実です。赴任中は力の限りを尽くしたいです」と意欲的です。

実家が神戸にある大山さんは、「阪神・淡路大震災の時には、全国の方々に助けていただきました。恩返しと言ふと語弊がありますが、皆さんの力になれるようしっかりと業務をまっとうしたいです」と決意をのぞかせます。

2人は、来年3月31日で任期を終える予定です。「石巻は忘れられないまちです。復興の正念場はまだこれからだと思いますが、いつか本当の意味で震災から立ち上がった石巻を見られればうれしいです」と異口同音に語ってくれました。



資産税課

伊藤大輔さん 34歳
千葉県南房総市から派遣



資産税課

大山隆徳さん 32歳
三重県伊賀市から派遣

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとおきの話をお寄せください。

テーマ 「ありがとう」
日常の生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。

字数 400字以内
投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールにて秘書広報課までお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。

注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたもの全てを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。

☎ 秘書広報課(内線4024) 〒986-8501(住所不要)
Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題



石巻地区

子どものまちで 職業体験

10月5日(土)・6日(日)
アイトピア通り等

小中学生たちが店や病院、銀行等を開き、職業を体験する「子どものまち・いしのまき2013」が中心市街地で繰り広げられました。参加した子どもたちは店を運営したり、そこで働いて地域通貨の「マキー」を稼ぎ、他の店でサービスを受ける等、実社会のシステムを楽しみながら学びました。高円宮承子さまが日本ユニセフ協会の職員として訪問され、子どもたちを見守られました。

石巻地区

助け合いの心を育む福祉まつり

9月29日(日)
石巻駅前にぎわい交流広場



「であいとふれあい」をテーマに市ボランティア連絡協議会が「2013いしのまき福祉まつり」を開催しました。平成元年から続いている催しで、震災のあった平成23年以外は、毎年実施しています。今年も市内の団体やボランティアによる趣向を凝らしたステージショーや模擬店等が繰り広げられ、参加した人たちは晴れ渡った秋空の下でイベントを通して福祉の心を培いました。